

2019年度
定期総会資料

と き 2019年7月17日（水）13時30分

と ころ ひだホテルプラザ 「神楽の間」

高山本線強化促進同盟会

次 第

1 開 会

2 挨拶

3 議 事

議案第1号 2018（平成30）年度事業報告について

議案第2号 2018（平成30）年度収支決算について

議案第3号 2019年度事業計画（案）について

議案第4号 2019年度収支予算（案）について

4 決 議

決議（案）について

5 そ の 他

6 閉 会

7 講演会

- ・「北陸新幹線開業後の東日本エリアからみた飛騨地域の魅力」
東日本旅客鉄道株式会社 北陸営業センター 所長 佐々木 隆博 氏

2018（平成30）年度事業報告書

自 2018年4月 1日

至 2019年3月31日

年 月 日	事 業 内 容
2018. 6. 10（日） 2018. 6. 28（木）	特急「ひだ」への利用実態調査の実施。
2018. 7. 11（水）	第1回幹事会を開催し、定期総会の日程、事業計画、要望活動について協議（富山市）
2018. 7. 30（月）	<p>定期総会を開催し、平成29年度事業報告及び同収支決算並びに平成30年度事業計画(案)及び同収支予算(案)を審議決定（富山市）</p> <p>〔決議〕</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 平成30年7月豪雨により、運休を余儀なくされている高山本線の日も早い復旧。 2 北陸新幹線との相乗効果やリニア中央新幹線の開業を視野に入れ、所要時間の短縮や列車本数の増加など、旅客輸送サービスの強化改善を推進すること。 3 輸送の安全、防災対策を充実させるため、あらゆる角度から強化改善を検討し、事故防止に努めること。 4 安全で快適に利用できるようにするため、鉄道施設や車両等の改善を推進すること。 <p>定期総会に引き続き、現地視察を実施。 「富岩運河水上ライン遊覧」</p>
2019. 2. 7（木）	東海旅客鉄道株式会社（名古屋市）及び西日本旅客鉄道株式会社金沢支社（金沢市）に対し要望を実施。
2019. 2. 8（金）	PR用クリアファイル作成・配布。

2018（平成30）年度決算書

自 2018年4月 1日

至 2019年3月31日

収入の部

(単位：円)

科 目	予 算 額	決 算 額	差 引 増 減 (△) 額	摘 要
1 負担金	362,000	362,000	0	18 団体
2 特別負担金	600,000	600,000	0	富山県・岐阜県
3 繰入金	0	0	0	
4 繰越金	448,947	448,947	0	前年度繰越金
5 雑入	100	8	△92	預金利息
計	1,411,047	1,410,955	△92	

支出の部

(単位：円)

科 目	予 算 額	決 算 額	差 引 増 減 (△) 額	摘 要
1 会議費	150,000	94,123	55,877	総会、幹事会会場経費等
2 事業費	1,136,047	498,300	637,747	啓発グッズ作成費、調査旅費等
3 事務費	10,000	10,000	0	総会開催通知返信はがき代等
4 負担金	10,000	10,000	0	全国鉄道整備促進協議会負担金
5 積立金	100,000	100,000	0	90周年記念事業積立
6 予備費	5,000	4,814	186	振込手数料等
計	1,411,047	717,237	693,810	

収入合計 1,410,955円

支出合計 717,237円

差引残高 693,718円 (2019年度へ繰越)

90周年記念事業の部

(単位：円)

前年度までの積立額 (a)	2018年度積立額 (b)	2018年度末残高 (a)+(b)
300,000	100,000	400,000

監査報告書

高山本線強化促進同盟会会則第7条第5項の規定により、平成30年度決算について、監査を実施し、証拠書類、帳簿などを精査したところ、適正に執行されていたことを認めます。

平成31年4月23日

監事 下呂商工会会長 中川 正之

平成31年4月25日

監事 富山市八尾山田商工会会長 井山 泰樹

高山本線強化促進同盟会

会長 岐阜県知事 古田 肇 殿

2019年度事業計画（案）

1 基本目標

高山本線は、これまで我が国のほぼ中央部において日本海側と太平洋側を結ぶ大動脈としての役割を担い、沿線各地はもとより中部圏全体の交流の活発化を図り、経済・文化の発展、向上に寄与してきた基幹鉄道である。

2015年3月14日に北陸新幹線の長野ー富山・金沢間が開業され、2027年にはリニア中央新幹線の東京ー名古屋間の開業が予定されており、これまで以上に地域間の交流・連携が図られる。

また、高山本線は沿線に多くの観光地を有するとともに、車窓風景も美しい「観光路線」であり、現在、政府が訪日外国人旅行者数を2030年に6000万人とする目標を掲げ、強力に推し進めている中で、その重要性はますます高まるものと期待される。

なお、2011年3月に発生した東日本大震災及び2016年4月に発生した熊本地震においては、各地に甚大な被害がもたらされ、交通機関も大きな打撃を受けた。高山本線においても、昨年7月の豪雨により多大な被害を受けたところであり、また、東南海地震の今後30年以内の発生が確実視されており、大規模災害時にも社会基盤としての機能を損なわないような設備・体制の整備をこれまで以上に促進していく必要がある。

こうした情勢を踏まえ、本同盟会は一致協力し、旅客輸送サービスの強化改善、大規模災害を視野に入れたより一層の安全確保に向けた取り組みを展開していく。

2 活動項目

- (1) 東海旅客鉄道及び西日本旅客鉄道に対する要望
- (2) 高山本線の利用者増に向けた広報・啓発活動
- (3) 全国鉄道整備促進協議会等の関係機関との連携及び情報収集活動
- (4) その他本同盟会の目的達成に必要な事項

2019年度収支予算（案）

自 2019年4月 1日

至 2020年3月31日

収入の部

(単位：円)

科 目	2019年度 予 算 額	平成30年度 予 算 額	比較増減 (△) 額	摘 要
1 負担金	362,000	362,000	0	18団体
2 特別負担金	600,000	600,000	0	岐阜県・富山県
3 繰入金	0	0	0	
4 繰越金	693,718	448,947	244,771	前年度繰越金
5 雑入	100	100	0	預金利息
計	1,655,818	1,411,047	244,771	

支出の部

(単位：円)

科 目	2019年度 予 算 額	平成30年度 予 算 額	比較増減 (△) 額	摘 要
1 会議費	150,000	150,000	0	総会、幹事会経費等
2 事業費	1,375,818	1,136,047	239,771	利用実態調査経費及び 広報・啓発事業経費等
3 事務費	15,000	10,000	5,000	総会案内送付用切手及び 返信はがき代等
4 負担金	10,000	10,000	0	全国鉄道整備促進協議会 負担金
5 積立金	100,000	100,000	0	90周年記念事業積立金
6 予備費	5,000	5,000	0	
計	1,655,818	1,411,047	244,771	

90周年記念事業の部

(単位：円)

前年度までの積立額 (a)	2019年度積立額 (b)	2019年度末残高 (a)+(b)
400,000	100,000	500,000

2019年度負担金内訳

(単位：円)

団体名	負担金額	団体名	負担金額
愛知県	28,000	七宗町	6,000
岐阜県	57,000	白川町	6,000
岐阜市	28,000	飛騨市	28,000
高山市	28,000	岐阜商工会議所	6,000
美濃加茂市	16,000	高山商工会議所	6,000
各務原市	16,000	下呂温泉観光協会	6,000
下呂市	28,000	富山県	57,000
坂祝町	6,000	富山市	28,000
川辺町	6,000	富山商工会議所	6,000
		合計	362,000

団体名	特別負担金額
富山県	300,000
岐阜県	300,000
計	600,000

決 議 (案)

高山本線は、我が国のほぼ中央部において日本海側と太平洋側とを結ぶ交通の大動脈としての役割を担い、沿線各地はもとより中部圏全体の交流の活発化を図り、経済・文化の発展、向上に寄与してきた基幹鉄道である。

これからも高山本線の存在は、太平洋側から日本海側に至る個性豊かな日本の中央部における広域交流圏を形成するうえで必要不可欠であり、沿線地域の産業、文化、生活等の諸機能の整備とあいまって、中部圏の活性化に大きく貢献するものと確信する。

2015年3月14日に北陸新幹線の長野一金沢間が開業し、首都圏と北陸との時間距離が飛躍的に短縮され、さらに、2027年にはリニア中央新幹線の東京一名古屋間の開業が予定されており、今後、地域間の交流・連携が一層図られることが期待される。

また、高山本線は沿線に多くの観光地を有するとともに、車窓風景も美しい「観光路線」であり、現在、政府が訪日外国人旅行者数を2030年に6000万人とする目標を掲げ、強力で進めている中で、その重要性はますます高まるものと期待される。

このような中、JR東海及びJR西日本においては、今後も、より一層の安全対策、安全運行を確保されることはもとより、北陸新幹線及びリニア中央新幹線開業を機に新たな交流人口の拡大と広域観光の推進を図るため、高山本線の一層の利便性の向上に努められることが強く望まれるところである。

よって、我々は、高山本線の強化促進に向けて、次の事項について一致協力して、強力な運動を展開するものとする。

- (1) 北陸新幹線との相乗効果やリニア中央新幹線の開業を視野に入れ、所要時間の短縮や列車本数の増加など、旅客輸送サービスの強化改善を推進すること。
 - ・ 特急「ひだ」の増発
 - ・ 北陸新幹線との乗り継ぎの利便性を確保するダイヤ改正、乗継割引の適用
 - ・ 観光シーズンに併せた臨時列車の運行拡大
 - ・ 富山－高山間における観光列車の季節運行
 - ・ 利用実態の把握
 - ・ 電化及び複線化の促進
 - ・ 部分線増、一線スルー化、分岐器の改良等によるスピードアップ
- (2) 輸送の安全、防災対策を充実させるため、あらゆる角度から強化改善を検討し事故防止に努めること。
 - ・ 危険箇所の保守点検や保安設備の強化等の積極的な推進
 - ・ 災害や事故発生時における機能的な連絡体制の構築
- (3) 安全で快適に利用できるようにするため、鉄道施設や車両等の改善を推進すること。

以上決議する。

2019年7月17日

高山本線強化促進同盟会

